

	音楽(器楽合奏)
--	----------

項目	観点	教科書名	
		中学器楽 音楽のおくりもの(17・教出)	中学生の器楽(27・教芸)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養うために、どのように配慮されているか。	・リコーダー、ギター、和楽器5種(篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓)を取り上げ、巻末には打楽器(5種)の図説があり、多くの楽器について学ぶことができるよう配慮されている。 ・「名曲旋律集」では、歌唱教材や鑑賞教材で扱われている曲や身近な曲の旋律をアルトリコーダーやソプラノリコーダー、ギター、箏で演奏することで、音楽を愛好する心情を育むことができるよう配慮されている。 ・「Let's Play !」「Let's Try !」のページでは、生徒にとって親しみやすい楽曲や名曲が取り上げられ、リコーダーのアンサンブル以外にも和楽器のアンサンブルができるよう配慮されている。 ・「何が同じで、何が違う？」のページでは、世界各地に伝わる楽器を分類別に示したり、楽器の特性を比較したりして、音楽の多様性について理解し、音楽を愛好する心情を育むことができるよう配慮されている。 ・「音のスケッチ」のページでは、和楽器やリコーダー、鍵盤楽器を用いた創作活動ができるよう配慮されている。 ・学習に役立つ情報をウェブサイトで提供している「まなびリンク」では、模範演奏の視聴や楽器の資料を調べることができ、生徒の興味・関心や学習意欲を引き出す配慮がされている。 ・リコーダーの学習では、新しく学ぶ運指を各教材のページに掲載することによって、生徒が活動しやすいよう配慮されている。 ・同じ楽曲のソプラノリコーダーの楽譜を掲載することで、小学校の学びを活用し、演奏する楽しさを味わうことができるよう配慮されている。 ・巻頭には「さまざまな音色や響きと奏法」のページで、教科書で学習する楽器を示しており、楽器を演奏する興味・関心を引き出す配慮がされている。	・リコーダー、ギター、和楽器5種(篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓)、打楽器(15種)を取り上げ、その楽器の仕組みや歴史について詳しく掲載したり、その楽器のよさを味わうための参考音源を提示したりと、楽器に興味をもてるよう配慮されている。 ・歌唱教材、鑑賞教材で扱われている作品や身近な作品を実際に楽器で演奏することで、生徒の興味・関心をさらに引き出すことができるよう配慮されている。 ・「楽器でMelody」のページでは、普段耳にする作品がリコーダー、箏、三味線、篠笛の単旋律で掲載されており、より和楽器に親しみやすくなるよう配慮されている。 ・「アンサンブルセミナー」のページには必ず「深めよう！音楽」のコーナーが設けられており、アンサンブルをする上で大切な基礎的な技能や知識の習得ができるよう配慮されている。 ・「Q&A」や各所のコラム、キャラクターの吹き出しにおいて、演奏に関するヒントが示されており、工夫して音楽表現をすることができるよう配慮されている。 ・演奏家の紹介がQRコードでその楽器のページに掲載されており、その演奏家を知ることによって音楽に親しんでいく態度を養う配慮がされている。 ・リコーダーの学習では、新しく学ぶ運指を各教材のページに掲載している。 ・同じ楽曲のソプラノリコーダーの楽譜を掲載することで、小学校の学びを活用し、演奏する楽しさを味わうことができるよう配慮されている。 ・巻末の「楽器の図鑑」で楽器が7つに分類されており、一目見てどのような楽器があるのかが分かり、楽器に対する興味・関心を引き出す配慮がされている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、どのような工夫が見られるか。	・具体的な学習目標を各教材で同じ場所に明記し、学習に見通しをもって主体的に学ぶことができるように工夫されている。 ・キャラクターの吹き出しなどでより豊かな演奏のためのアドバイスが示されており、自分の考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。 ・各楽器の奏法を学ぶページのはじめに演奏家からのメッセージを掲載することにより、興味・関心を高め、主体的に学ぶ意欲が喚起されるよう工夫されている。 ・曲中で使用するリコーダーの運指をそのページに載せることにより、生徒の実態に応じた主体的な学びとなるよう工夫されている。 ・「発展」のページでは、世界各地に伝わる楽器を分類別に示したり、楽器の特性を比較したりして、地域の文化や歴史を主体的に学習できるよう工夫している。 ・「何が同じで、何が違う？」のページでは、これまで学習したそれぞれの楽器の音の出る仕組みや演奏の仕方の特徴などに注目し、深い学びへとつながることができるよう工夫している。 ・「何が同じで、何が違う？」のページの「話し合おう」のコーナーでは、自分の考えをもとに対話的な学習ができるよう工夫している。 ・QRコードで教科書出版会社のウェブサイトアクセスでき、模範演奏を視聴したり、学習に役立つ情報を得たりすることができ、生徒一人一人の主体的で深い学びに対応している。	・学習目標や活動内容が題材ごとに同じ場所に明記されており、生徒が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。 ・「Q&A」では、より豊かな演奏に向けてのアドバイスが示されており、自分の考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。 ・各楽器の奏法を学ぶページに演奏家の写真を掲載することにより、興味・関心を高め、主体的に学ぶ意欲が喚起されるよう工夫されている。 ・「深めよう！音楽」のページでは、より豊かな演奏をするための奏法の工夫や、アンサンブルするときのポイントをキャラクターの吹き出しに示し、対話的な学びをすることができるよう工夫されている。 ・「音楽を形づくっている要素」が教材ごとに言葉で示され、音楽的な見方や考え方をもとに言語活動しやすいよう工夫されている。 ・曲中で使用するリコーダーの運指をそのページに載せることにより、生徒の実態に応じた主体的な学びとなるよう工夫されている。 ・鑑賞教材にある曲を和楽器のアンサンブル曲に積極的に取り入れて関連を図り、音楽文化に親しみ、主体的に音楽表現を工夫することができるようになっている。 ・日本や世界のポップス等の曲を教材に用いたり、「楽器でMelody」のページで名旋律を取り入れたりすることにより、興味・関心を高め、主体的な学びを促している。 ・教材ごとにQRコードで教科書出版会社のウェブサイトアクセスでき、学習に役立つ情報を得られるようになっており、生徒一人一人の主体的で深い学びに対応している。
3 配列・分量	○器楽教材の構成・配列や内容の系統性については、どのような特色があるか。	・リコーダーやギター、和楽器、打楽器がバランスよく扱われており、吹く楽器と弾く楽器に分けて配列されている。 ・各楽器の学習の始めに、楽器の特徴や奏法が分かりやすく解説されたページが配列されている。 ・音楽一般教科書(音楽のおくりもの)と同様に、「何が同じで、何が違う？」や「発展」のページが掲載され、音楽一般との連携が図れるような特色がある。 ・「吹く楽器」と「弾く楽器」のそれぞれの学習の終わりには、「何が同じで、何が違う？」と「発展」のページを必ず設け、発展的な学習をすることができるよう配列されている。 ・様々な楽器を使って創作活動をすることができる「音のスケッチ」があり、音楽一般教科書(音楽のおくりもの)との系統性がある。 ・同属楽器によるアンサンブルの楽曲が多く掲載され、合わせる楽しさが感じられる配列となっている。 ・学習目標と学習のポイントがページの上部に示され、奏法だけでなく表現の工夫にも注目して活動できる構成となっている。 ・見開きのページごとに学びははじめの曲からまとめの曲という流れで配置されている。 ・「Let's Play !」や「Let's Try !」、「合わせて演奏しよう」、「名曲旋律集」では、楽器で自然や四季の美しさ、暮らしと伝統的な行事と関わる歌詞をもつ歌唱教材を扱うことで、歌唱と器楽の表現活動を関連付けて学ぶことができるよう配列している。	・リコーダーやギター、和楽器、打楽器がバランスよく扱われており、それらを用いた楽曲についてもリコーダーを中心に過不足なく掲載され、様々な楽曲を演奏できるような配列の工夫が見られる。 ・リコーダーやギター、箏、三味線、太鼓、尺八については、見開き2ページにわたって楽器の特徴や姿勢、奏法を丁寧に解説したページが必ず配列されている。 ・音楽一般教科書(中学生の音楽)と同様に、器楽にも「深めよう！音楽」や「My Melody」のページが掲載され、音楽一般との連携が図れるような特色がある。 ・アルトリコーダーの学習では、「Lesson1～4」で段階的に運指の練習を行うことができるような楽曲が配列されている。 ・「アンサンブル」や「楽器でMelody」のページは、日本や世界のポップス曲や、音楽一般教科書(中学生の音楽)で学習した楽曲を中心に構成されている。 ・扱う打楽器の種類が多く、一つ一つの楽器の奏法が詳しく解説され、アンサンブルで取り扱う楽曲に対応できるように配列されている。 ・教材ごとに活動文が示され、見通しをもって学習できるよう構成されている。 ・音楽一般教科書(中学生の音楽)と同様に「学びの地図」が目次の次のページに掲載され、見通しをもって学習を進められるような配列となっている。
4 表記・体裁	○楽譜や、挿絵、写真などの表記、表現について、どのような工夫が見られるか。	・奏法を説明する写真やイラスト、演奏家からのメッセージ、楽器の写真が豊富に掲載され、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・特別支援教育の観点から、ユニバーサルデザインフォントの使用や、カラーユニバーサルデザインへの配慮、文字の色やページ全体の配色の統一、同一色による学習目標の提示など、全ての生徒に見やすく読みやすいよう工夫されている。 ・音楽一般教科書(音楽のおくりもの)にも掲載されていたリコーダー運指表やギターの運指表、コードに対応した楽譜を大きく掲載し、使用しやすくなっている。 ・「何が同じで、何が違う？」のページが音楽一般教科書(音楽のおくりもの)の「何が同じで、何が違う？」と同様のレイアウトになっており、統一感があり、使用しやすいよう工夫されている。 ・各楽器の最初のページに演奏家のメッセージが写真と併せて掲載され、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 ・学習に役立つコンテンツを見ることができるQRコードを目次に掲載し、「まなびリンク」の印が付いている教材では、楽曲の模範演奏を聴いたり、「発展」ページの解説を読んだりすることができるよう工夫されている。	・奏法を説明する写真やイラスト、演奏家、楽器の写真が豊富に掲載され、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・特別支援教育の視点から、全体の9割以上でユニバーサルデザインフォントが使用され、文字の色やページ全体の配色を統一し、全ての生徒に見やすいよう工夫されている。 ・郷土の祭りや芸能、和楽器を演奏する中学生の写真やインタビューが掲載され、伝統芸能に対する生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 ・巻末には、ギターのコード表と併せて模式図が掲載され、生徒の視点から分かりやすいよう工夫されている。 ・音楽一般教科書(中学生の音楽)と同様に、多くの写真を使用した「音楽ってなんだろう？」が掲載され、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。 ・教科書に掲載されている演奏家についての情報を見ることができるQRコードを関連するそれぞれのページに掲載し、動画や音声などの情報を視聴・閲覧することができるよう工夫されている。